

平成 30 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

# フードバンクこども支援プロジェクト

## 事業報告書



2019 年 3 月



特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都

# フードバンクこども支援プロジェクト 事業報告書 目次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| はじめに.....                 | 2  |
| セカンドハーベスト京都の概要.....       | 3  |
| フードバンクこども支援プロジェクトの概要..... | 4  |
| 事業報告                      |    |
| ❶計画立案.....                | 5  |
| ❷希望者の募集.....              | 6  |
| ❸周知・広報.....               | 7  |
| ❹食品調達・出荷準備.....           | 9  |
| ❺食品の出荷.....               | 11 |
| ❻成果と課題.....               | 13 |
| おわりに～初年度の総括と次年度への抱負～..... | 14 |



## はじめに

京都のフードバンク団体である私達セカンドハーベスト京都は、本年度、全国で6番目、西日本では初の「フードバンクこども支援プロジェクト事業」を実施いたしました。

セカンドハーベスト京都では、2015年の団体発足当初より「こどもの貧困問題」にコミットすべく、こども食堂支援事業などを展開してきましたが、いわゆる「貧困コア層」の切実なニーズにはほとんど応えられていないと実感させられることが多く、暗中模索するなか、先行団体のフードバンク山梨が実施した「フードバンクこども支援プロジェクト」を知りました。

最初にこのプロジェクトの内容を知った時には、行政・学校との関係構築、予算の獲得、人員の確保、食品の調達等々、乗り越えなければならない壁があまりに多く、設立3年目の団体には高過ぎるハードルのように思えました。しかし、幸いにも多くの皆様のご支援ご協力を得て、初のプロジェクトをなんとか無事完了することができました。

ここに事業報告を行うにあたり、事業主旨を評価し助成していただいた独立行政法人福祉医療機構をはじめ、一緒に事業を進めてくださった京都市教育委員会、八幡市福祉部、八幡市教育委員会、京都府立京都八幡高等学校の皆様、食品をご提供いただいた企業・団体や一般市民の皆様、クラウドファンディングを通じて資金援助してくださったパトロンの皆様、作業に協力してくれたボランティアの皆さん、その他多くの方々に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

本年度は初のプロジェクト実施ということもあり、事業立案から出荷作業まで、すべてが試行錯誤の連続でしたが、次年度以降はこの経験を活かし、より実りの大きいプロジェクトに育成していきたいと考えております。今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都  
理事長 澤田 政明

# セカンドハーベスト京都の概要

「フードバンク」は、さまざまな理由で市場に流通できなくなった食品や一般家庭などの余剰食品を食を必要とする人やその支援団体に無償で提供する活動です。1960 年代にアメリカで始まり、日本でも現在80 以上の団体が活動しています。

セカンドハーベスト京都（以下、2HK）は、「食品ロス削減とフードセーフティネットを両立させる社会インフラのひとつとなること」をミッションとして、2015年12月に団体設立、2016年12月に法人設立したフードバンク団体です。

企業・団体や個人の皆様からご提供いただいた食品を生活困窮者支援団体、福祉施設などに無償でお届けする「定期配送」のほか、行政や支援施設の要請で生活困窮者に食品を緊急支援する「食のセーフティネット」などの活動を行っています。また、ご家庭で余った食品を商業施設やイベント会場に持ち寄っていただく「フードドライブ」活動も定期的に実施しています。

## 活動イメージ



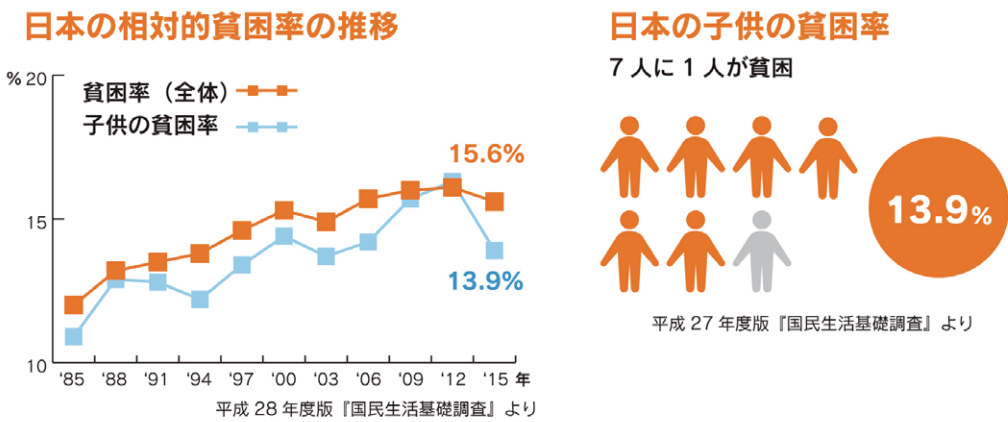
## 活動実績

|                       | 第2期（2017年12月～2018年11月）                                                                                                                                                                    | 第1期                |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| 食品提供者<br>※フードドライブ除く   | 法人：43団体（企業16、団体18、公益財団法人6、行政3）<br>個人：46名                                                                                                                                                  | 法人：36団体<br>個人：45名  |
| 食品取扱量                 | 年間 18,591,9kg                                                                                                                                                                             | 14,048kg           |
| 食品届け先<br>●定期配送        | 67団体施設、支援対象者（延べ）19,813名<br>配送頻度：週2～3回（1回当たり1～4団体にお届け）<br>生活困窮者支援団体4、母子生活支援施設3、自立援助ホーム1、こども食堂27、訪問介護サービス2、生活支援施設3、児童養護施設8、DV支援施設1、行政5、社会福祉協議会2、学校2、地域包括支援センター1、こども支援プロジェクト1、乳児院2、フードバンク団体5 | 61団体施設<br>約13,000名 |
| ●緊急支援<br>（食のセーフティネット） | 行政、社会福祉協議会などの要請に応じてお届け<br>今期要請回数53回、対象人数89人                                                                                                                                               | ――                 |

# フードバンクこども支援プロジェクトの概要

「フードバンクこども支援プロジェクト」は、学校給食のない長期休暇（夏休み、冬休み）中に就学援助受給世帯などに対して食品を直接送付する取り組みです。

その背景にあるのは貧困問題です。かつて「1 億総中流社会」といわれた日本も近年は格差の拡大が進み、6 人に1 人が平均所得の半分以下の収入で暮らしています（相対的貧困）。特にひとり親世帯の貧困率は高く、「生活が苦しい」と感じる人は8 割以上に上っています。



貧困世帯の中には、学校給食のない長期休暇中に十分な食事を摂ることができず、健康を損なうこともあります。こうした事態への懸念から、2015年にフードバンク山梨が全国で初めてフードバンクこども支援プロジェクトを実施し、これをロールモデルにした取り組みが各地に広がりました。

2HKが拠点を置く京都府においても貧困問題は深刻で、相対的貧困率は全国平均を上回るといわれています。こどもの貧困も大きな問題となっており、学校教職員の方々から「休み明けに痩せて登校してくる生徒がいる」という声を幾度となく聞くようになりました。

こうしたことから、2HKでも新たな事業としてフードバンクこども支援プロジェクトを実施したいと考え、第1 回となる2018年は「試行実施」と位置づけて事業に取り組みました。

| 助成事業の概要 |                                                                                                              |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 助成事業名   | フードバンクこども支援プロジェクト                                                                                            |
| 事業期間    | 2018年4月1日～2019年3月31日                                                                                         |
| 助成額     | 5,686,000円                                                                                                   |
| 事業の内容   | ①食品ロス削減<br>食品関連企業や防災備蓄食品を保有する企業に食品提供を働きかける、市民に食品寄付を募る<br>②こども支援<br>就学援助受給世帯などに本プロジェクトの案内を行い、希望する世帯に食品を直接送付する |



# 事業報告①計画立案

本プロジェクトの成否は、支援対象の「低所得子育て世帯」の情報を把握している地元行政の協力を得られるか否かにかかっています。他県ではこの関門が突破できず、頓挫してしまう例も多いと聞きますが、今回は多くの方々のお力添えで、実施に漕ぎ着けることができました。

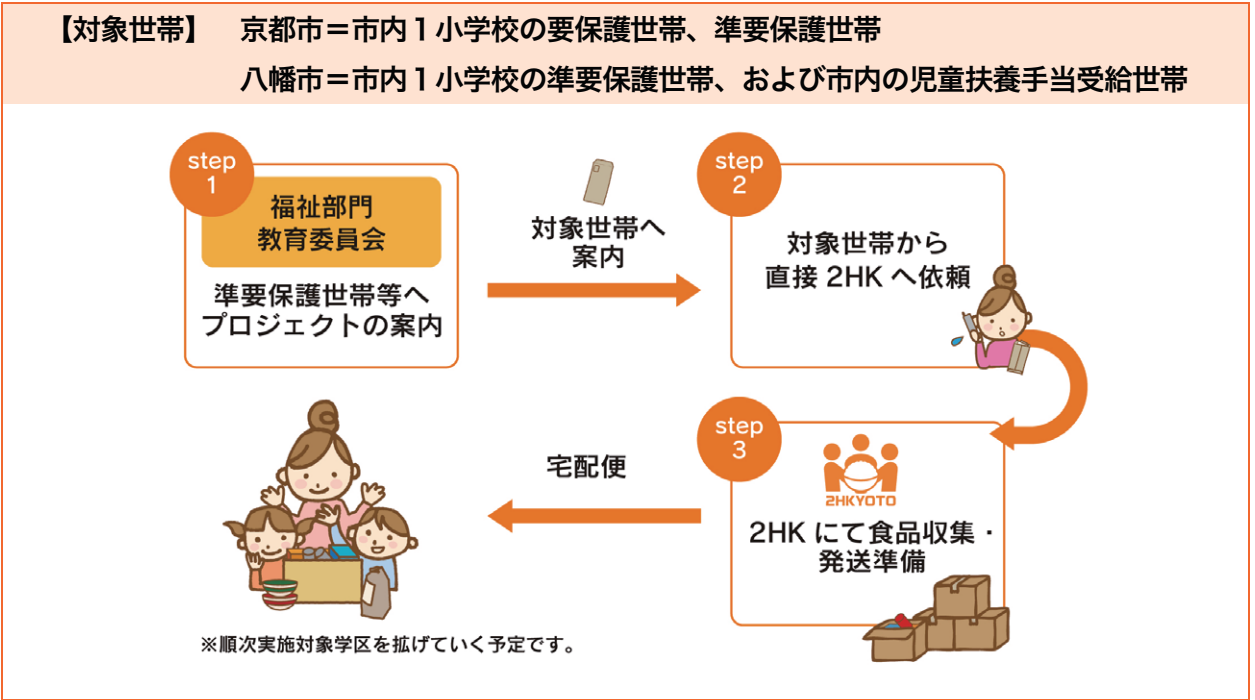
## (1)行政への協力要請

2018 年は試行実施ということもあり、京都府下の 3 市にアプローチを試みました。具体的には 2HK が拠点を置く京都市、比較的近隣の八幡市、両市教育委員会、及び別の近隣 1 市に対して、紹介者などを通じて本プロジェクトの主旨を説明し、協力を要請しました。

その結果、京都市と八幡市からレスポンスがあり、試行実施にご協力いただけることになりました。別の 1 市からはレスポンスをいただけなかったため、残念ながら今回は見送ることとしました。レスポンスの有無の要因としては、京都市とは従来からの人的ネットワークがあったこと、八幡市では有力な市議会議員さんが事業主旨に強く賛同して下さったことなどが挙げられます。

## (2)支援対象の設定

先行団体のフードバンク山梨では、フードバンクことも支援プロジェクトの支援対象を「就学援助受給世帯（≒準要保護世帯）」としています。生活実態としては「要保護世帯（生活保護費受給世帯）」より厳しい世帯が多いとの認識によるものです。2HK も当初はこれを踏襲する計画でしたが、京都市、八幡市と協議した結果、今回は下記のようなスキームで事業を実施することとしました。



# 事業報告②希望者の募集

支援希望者の募集は、小学校や行政窓口から対象世帯に案内文を配布し、希望者は直接 2HK へ申し込むこととしましたが、今回は初実施ということで複数の配布方法を試行しました。また募集は当初 1 回の予定でしたが、申込み数が想定を下回ったため追加募集を行いました。

## (1)案内文配布方法

対象世帯保護者への案内文配布は、以下の方法で実施しました。

|                  | 配布方法                                    | 配布数          | 申込み数 |     |     |
|------------------|-----------------------------------------|--------------|------|-----|-----|
|                  |                                         |              | 夏    | 冬   | 合計  |
| 京都市<br>実施小学校     | 保護者との連絡に使用している「通い封筒」に<br>対象世帯のみ案内文を封入   | 150<br>(夏冬)  | 26   | 10  | 36  |
| 八幡市<br>実施小学校     | 夏休み前の三者懇談時に学校に配架し、自由に<br>持ち帰りいただく       | 250<br>(夏のみ) | 7    | —   | 7   |
| 八幡市福祉部<br>子育て支援課 | 夏＝窓口に配架し、自由に持ち帰りいただく<br>冬＝児童扶養手当受給世帯へ郵送 | 800<br>(夏冬)  | 24   | 118 | 142 |
| 生活支援課            | 夏＝児童扶養手当受給世帯へ郵送                         |              |      |     |     |
|                  |                                         |              | 57   | 128 | 185 |

申込み数／配布数は、京都市小学校の「通い封筒に封入」が最も高く、八幡市小学校の「自由に持ち帰り」が最も低い結果となり、ダイレクトなアプローチほど有効であることが確認されました。このため冬休み前の追加募集については、通い封筒、個別郵送の 2 方法のみで行いました。なお、夏に比べ冬の申込み数が大幅に増加した要因は、上記配布方法の見直しのほか、本プロジェクトがテレビなどで紹介されたこと（詳細は次ページ参照）も関係していると思われます。

## (2)申込み方法

支援希望者には、案内文と一緒に配布した申込書に必要事項を記入し、2HK に直接申込みをしていただくこととしました。申込み方法としては、①申込書を郵送、②ファクシミリで送信、③2HK のホームページから申込み、の 3 つの方法を選択できるようにしました。結果、①②③とも一定数の利用があり、それぞれ有効であることが確認されました。



本プロジェクトの周知・広報活動としては、2HK ホームページを通じて随時情報発信を行ったほか、  
(1)報道機関向けプレスリリースの発行、(2)ポスター掲示・チラシ配布、(3)クラウドファンディングの主に3つを実施しました。

### (1)報道機関向けプレスリリース

プレスリリースは、プロジェクト実施のお知らせ (6/16)、第1次出荷作業のお知らせ (7/17)、第2次出荷作業のお知らせ (8/6)、第3次出荷作業のお知らせ (12/10) の計4回行いました。  
なお、初回のみプレスリリース配信サービス (有料) を利用しましたが、ほとんどレスポンスを得られなかったため、京都府教育記者クラブへのリリース方式 (いわゆる「投げ込み」) に変更しました。その結果、以下のメディアで報道していただきました。

|     |                                                                                                                    |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| テレビ | NHK ニュース「おはよう関西」に理事長出演 (8月16日放送)                                                                                   |
| ラジオ | KBS 京都ラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」に理事長出演 (8月13日放送)                                                                          |
| 新聞  | <p>京都新聞 7月22日朝刊掲載</p> <p>読売新聞 7月25日朝刊掲載</p> <p>京都新聞 8月11日朝刊掲載 (山城版)</p> <p>公明新聞 8月25日掲載</p> <p>毎日新聞 12月16日朝刊掲載</p> |



### (3)クラウドファンディング

クラウドファンディングサイト「CAMPFIRE」で「京都初のフードバンクこども支援プロジェクトを成功させたい!」と題し、プロジェクトPRとパトロン (支援者) 募集を行いました。



目標金額は125万円に設定し、支援金は食品配送料に充てる予定でしたが、6月21日～8月31日の期間内に集まった支援額は188,000円 (パトロン14名) と目標を大幅に下回りました。  
その大きな要因は、同時期に大阪府北部地震や西日本豪雨などの大規模災害が相次いだため、サイト更新などの積極的なPR活動を控えたためと思われます。



京都新聞社提供 (2018年7月22日付)



毎日新聞社提供 (2018年12月16日付)



フードバンク活動で支援先に提供する食品は、企業・団体や市民の皆様から寄付していただいた食品です。本プロジェクトでも多くの方々のご協力により、精米・玄米、インスタント・レトルト食品、飲料、防災備蓄品、菓子類など、さまざまな食品を提供することができました。

(1)食品の調達

今回のプロジェクトでは、以下の方々にご提供いただいた食品を使用しました。  
(※順不同。●は全国フードバンク協議会「マッチングシステム」を通じてご提供いただきました)

- 京都市左京区 辻本様

●京都市左京区 清水様

●IQVIA ジャパングループ様

●コストコホールセールジャパン株式会社京都八幡倉庫店様

●学校法人龍谷大学農学部様

●明治ホールディングス株式会社様

●近畿経済産業局様

●フードドライブにご協力いただいた皆様
- 京丹後市 吉岡様

●城陽市 鹿野様

●品川インターシティマネジメント株式会社様

●マルコメ株式会社様

●京阪ホールディングス株式会社様

●匿名希望企業様

このうちコストコホールセールジャパン株式会社京都八幡倉庫店様には、通常のフードバンク活動においても賞味期限間近の食品（パン、青果等）をご提供いただいておりますが、今回は本プロジェクトのため、特別に店内で通常販売されている商品をご提供いただきました。



(2)食品構成と出荷量

各家庭に送付する食品は、精米・レトルトごはんのほか、パン、シリアル、カップ麺、スープ・みそ汁、カレー・肉じゃが・ハンバーグ・煮魚などのレトルトおかず、缶詰、豆乳、甘酒、野菜ジュース、ペットボトル飲料、ビスケット、菓子・スナック類など、できるだけバラエティに富み、栄養面にも配慮した構成としました。  
またアンパンマンなどのキャラクター付き食品、電子レンジでつくるポップコーン、味付きストローなど、子どもが喜びそうな食品や、親子で調理を楽しめる食品も盛り込みました。



出荷量は、1～3人家族が100サイズ（梱包箱の外寸合計が100cm）1箱、4人以上家族が120サイズ（同120cm）1箱としました。重量換算では100サイズ＝約10kgと想定しました。このうち精米については、5人家族まで＝1人当たり1kg、5人以上家族＝5kgとしました。  
なお、今回食品をお届けした家庭（全185）の世帯人数は、2人世帯＝47、3人世帯＝65、4人世帯＝38、5人以上世帯＝35でした。

(3)出荷準備

食品の出荷に先立ち、精米や大袋商品のリパック（小分け包装）、アンケート用紙・食品取り扱い注意書・配送伝票の作成、運搬車両の手配、梱包材の準備、データ入力などの準備作業を順次実施しました。リパック作業やデータ入力などはボランティアの皆さんにもご協力いただきました。  
また、第3回出荷日は12月22日とクリスマス直前だったことから、小学校低学年の児童がいる家庭用にクリスマスカードを作成し、菓子類のパッケージに封入しました。





# 事業報告⑤食品の出荷

食品の出荷は夏2回、冬1回の計3回実施しました。出荷作業には京都府立京都八幡高等学校南キャンパスに全面的にご協力いただき、教室を作業場所としてご提供いただいたほか、同校ボランティア部の皆さんが作業に参加してくださいました。

## (1) 京都八幡高等学校のご協力

先行団体のフードバンク山梨では、こども支援プロジェクトの出荷作業を地域の学校や企業・団体とのコラボ形式で実施しています。2HK もこれをモデルとすべく、協力先を探していたところ、行政関連の任意団体の方から京都八幡高等学校南キャンパスをご紹介いただきました。

同校は本プロジェクトを試行実施する八幡市に立地し、京都府内で唯一の介護福祉科を持つ高校でもあり、2HK にとっては願ってもない協力先です。早速、紹介者を通じて協力要請したところ、ご快諾くださり、協議の結果、①作業場所の提供、②ボランティア部部員の作業参加、の2点においてご協力いただくことになりました。

## (2) 出荷作業

出荷作業は、京都八幡高等学校南キャンパスにおいて、下記の3回実施しました。

第1次・第2次に比べ、第3回は出荷量が大幅に増加したため、作業時間や作業場所、ピッキング方式などを見直しました。その結果、各回とも大きな混乱なく作業を完了することができました。

|         | 第1次出荷      | 第2次出荷      | 第3次出荷           |
|---------|------------|------------|-----------------|
| 実施日     | 7月21日(土)   | 8月11日(土)   | 12月22日(土)       |
| 参加人数    | 16名        | 13名        | 18名             |
| 出荷量     | 49件(546kg) | 57件(849kg) | 185件(1,613.5kg) |
| 作業時間    | 午後(約3時間)   | 午後(約4時間)   | 午前～午後(約6時間)     |
| 作業場所    | 一般教室       | 一般教室       | 調理実習室           |
| ピッキング方法 | 摘み取り方式     | 摘み取り方式     | 種まき方式           |

※摘み取り方式＝発送先ごとに複数の商品を必要数だけ順番に集めていく方法  
種まき方式＝特定の商品を必要数取り出した後、発送先に分配していく方法



第1次出荷



第2次出荷



第3次出荷

\*\* 京都府立京都八幡高等学校の皆さんに感想を寄せていただきました \*\*

## ●南キャンパス副校長・中村健史さん

今回、このプロジェクトに参加させていただいたおかげで、生徒達は一見豊かな日本にも「食べ物に困っている家庭がある」ということを知りました。ボランティア部では障がい者や高齢者の方々とは数多く接してきましたが、今回これまでと全く違う活動を体験したことで、生徒達は視野が広がり、人間的にも成長したと思います。私自身も大変勉強になりました。ぜひまた参加させていただきたいと思います。

## ●ボランティア部顧問・菊藤善治さん

ボランティア部は、八幡市福祉の集い、赤い羽根共同募金、スポーツ交流会の運営ボランティアなど、さまざまな活動に参加していますが、今回のような「緑の下力持ち」的な活動は初めてでした。生徒達も全く新しい経験で、ものを考える視点が増したのではないのでしょうか。福祉関係の仕事に就く生徒が多いので、進学にしろ就職にしろ、とても良い経験になったと思います。来年もぜひ参加させてもらいたいです。

## ●ボランティア部部长・近藤真由さん

顧問の先生からプロジェクトの話を聞いたとき、新しい活動ができるとワクワクしました。他の団体と協力して活動するのも初めてで新鮮でした。箱詰め作業は個数を間違えてはいけないので責任重大！ たくさんの食品をきちんと全部入れるのにも苦労しましたが、作業は楽しかったです。私は今年卒業し、介護福祉士として働きます。社会人になってからも、できればボランティアを続けたいと思います。



【ご協力いただいたボランティア部の皆さん】 近藤真由さん、長谷川千冬さん、大八木芽衣さん（3年）木村唯依さん、平唯羽さん、村木愛佳さん、山本夢珠さん（2年） 竹田裕靖さん、高尾日和さん（1年）

2HK では今回のご協力に対し感謝の気持ちを表すため、2019年1月8日の始業式に澤田理事長が列席させていただき、ボランティア部の皆さんに感謝状を贈呈しました。





# 事業報告⑥成果と課題

2HK では低所得子育て世帯の生活実態を把握し、今後の活動の指標とするため、専門家監修のもと利用者へのアンケートを実施しました。その結果、食品送付への感謝の声が数多く寄せられた一方、経済面や健康面への不安の声も聞かれ、支援の必要性を再認識させられました。

## (1)利用者の声

申込み段階では、利用申込書にメッセージ欄を設け、現在の生活状況などを自由記述していただきました。また食品発送時にはアンケート用紙を同梱し、本プロジェクトへの評価や家庭の状況などについて回答していただきました。以下はその抜粋です。

2月に離婚し、ひとり親になりました。小学生2人、保育園児2人がいます。私は仕事を週3回行っていますが、月平均4万円です。不足分は生活保護でなんとかやっています。(20代女性)

5月に主人が交通事故にあってしまい、6月からの所得が私のみ(パート)になってしまいます。節約するとなると食費が一番に出てきたので、申込みをしようと思いました。(30代女性)

母子家庭。父親(子から見た関係)からの養育費はなし。進学にあたっての制服費などの出費で3カ月間、生活の状況が厳しいです。両親も他界しており身寄り無しです。(40代女性)

普段は生活に必要な最低限の物を購入し、子供たちには我慢させている事が多くありますが、今回子供たちが欲しかったけど手に入れた事がなかったら物があり、喜ぶその姿を見て、私もまたこれから頑張ろうという気になれたし、何よりありがたかったです。(40代女性)

夏の2回、子供達が受け取って私が仕事から帰ったらみんなで何が入っているかを楽しみに箱をあけさせてもらいました。疲れて作る気はもちろん食べる気にならない時でも、子供達に「こないだ来たやつどれ食べる？」とコミュニケーションをとりながら乗り越えることができました。次回も楽しみにしています。(40代女性)

## (2)アンケート結果について

今回行ったアンケートは、立命館大学産業社会学部現代社会学科の石田賀奈子准教授に監修していただき、アンケート結果についてもコメントしていただきました(以下はコメントの抜粋)。

世帯の状況として、家賃や公共料金の滞納はあまりないものの、養育者自身の体調に不安を抱えながらの子育てであること、その中で習い事をあきらめたという回答が多かったことが特徴的だった。子どもにとって自己実現欲求が十分に保障しえない環境であること、また、親子が余暇を楽しむことが困難なことがうかがえる。しかし、アンケート結果から、フードバンクの活動によって「食」に関する不安が軽減されることがうかがえた。今回の取り組みはアウトリーチ型の支援の一つのモデルとなりうる。

しかしいくつかの課題も考えられる。まず「支援に対する感謝」が語られる一方で、食材については活用方法を戸惑う意見も見受けられた。調理の負担が少ないレシピの情報提供など、なんらかの方策を講じてもよいかもしれない。また、お菓子の提供は母親にとっては栄養のバランスとの兼ね合いで戸惑いを抱く場合も少なくない。支援を必要とする側の声にどこまで寄り添うことができるか、フードバンクの本来の意義と合わせて、子どもの豊かな食の育ちをどのように保障していくか検討していく必要がある。

# おわりに ～初年度の総括と次年度への抱負～

冒頭でも述べたとおり、2HK では「長期休み明けに痩せて登校してくるこどもを減らしたい!」との思いから、新たな事業としてフードバンクこども支援プロジェクトに取り組みました。第1回の本年度は「試行実施」と位置づけ、2学区1地域で実施しましたが、今後は順次対象地域を拡大し、将来的には京都府全域に波及させていきたいと考えています。

そうした観点から本年度の取り組みを振り返ると、最大の成果は、地元行政との協働関係を構築できたことだと思います。今回、京都市・八幡市のご協力のもとで事業を完遂した経験は、2HK にとって大きな財産であり、対象地域拡大に向けた基盤づくりにもなりました。実際、近隣他市の方から「来年はうちでもやってほしい」というご要望も既にいただいています。事業継続のための「最初の大きな壁」は乗り越えられたのではないかと考えています。

一方、今後に残った課題としては「食料の確保」と「財源の確保」という2つの大きな問題をクリアしていかなければなりません。

まず「食料の確保」ですが、本年度は申込み件数が目標数を下回ったこともあり、結果的には当初予定より多くの食料を送付することができました。企業・団体や市民の皆さんのご協力はもとより、全国フードバンク協議会という「横のつながり」にも大いに助けられました。ただ今後、対象地域や世帯数を拡大するにあたっては、食品取扱量の拡大が不可欠です。食品提供元の開拓、他団体との連携、フードドライブの頻度向上など、さまざまな取り組みを進めていく必要があると考えています。

次に「財源の確保」ですが、本年度は初実施ということもあり、事業費の90%以上を助成金に依存するかたちとなりました。そのため、助成が決定するまでは本格始動するわけにいかず、かといって正式決定を待っては間に合わず…という綱渡りの状態を余儀なくされました。こうした状態から脱し、安定的に事業を継続していくためには、「助成依存」から「自主財源」への体質転換を早急に図っていく必要があります。

本年度もクラウドファンディングを2HK として初めて実施し、自主財源の確保に努めました。残念ながら大規模災害の発生と時期が重なったこともあり、目標額には大幅に及ばない結果となりましたが、次年度以降も継続して取り組んでいきたいと思っています。さらに街頭募金、クリック募金、チャリティイベント、バザー、ポイント寄付、寄付付き商品の活用など、さまざまなファンドレイジングの手法も積極的に取り入れ、多様な財源の確保に全力を挙げていきたいと思っています。

以 上



**特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都**

〒605-0018 京都市東山区巽町 442-9  
京都市東山いきいき市民活動センター内  
Tel 075-601-2100 Fax 075-320-3765  
<https://www.2hkyoto.org> E-mail: [info@2hkyoto.org](mailto:info@2hkyoto.org)